

全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会は 1989 年、日本歯科放射線学会の開催時に歯科担当技師による設立総会が開催され誕生しました。設立の背景には、医科領域に比べて少なかった歯科領域での勉強会、情報交換、技術交流の場を設けたい、そんな諸先輩の意気込みがあったのです。1990 年には第 1 回総会および歯科放射線技術研修会を東京医科歯科大学において開催しております。それ以降脈々と連絡協議会は続き、2018 年 6 月 30 日に創立 30 年記念大会を大阪大学の担当で開催しております。歴代会長は初代：西岡敏雄氏（日本大学）、2 代：田中守氏（鶴見大学）、3 代：角田明氏（大阪大学）、4 代：片木喜代治氏（朝日大学）、5 代：丸橋一夫氏（日本大学）、6 代：北森秀希氏（大阪大学）、7 代：笹垣三千宏（大阪歯科大学）が就任しています。

この 30 年間で口腔・顎顔面領域の画像検査は大きく進歩しました。初期のフィルム法による口内法 X 線撮影、パノラマ X 線撮影が主流の時代から、CR、マルチスライス CT、US、MRI、コーンビーム CT、デジタルラジオグラフィなど高機能デジタル撮像機器へと変遷しました。その当時の多くの会員は学生時代や研修時代をアナログ撮影で勉強していたので、こういった新技術の知識獲得に連絡協議会の会誌、技術研修会が大いに役立った事は言うまでもありません。特に技術研修会においてデジタル化における諸問題についてフリー討論会が企画され、その内容を会員にフィードバックした事で各施設でのデジタル化が促進されたと思います。

学術活動として「歯・顎顔面検査法」の出版、患者様向けの小冊子や被曝・撮影準備ポスターの作成、日本放射線技術学会誌に歯科領域検査、疾患について連載を行いました。近年では日本歯科放射線学会との連携強化として医療情報委員会と防護委員会に委員を派遣、理事会に出席し連絡協議会の活動を報告しております。JORT シンボルマーク、学術調査研究費、奨励賞の制定、各種アンケート調査の実施、役員会とは別に各種委員会を立ち上げ、委員長を中心に各分野の活動を促進しております。現在の重点企画事項として、口腔・顎顔面領域撮影専門技師認定制度発足に取り組んでいます。日本診療放射線技師会と連携し、専門技師認定条件の策定や自己学習のための e-ラーニングシステムの構築を行っております。

発足以降、連絡協議会はいろいろな難局を迎えました。特筆するのは 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災への対応だと思えます。その年は 6 月に鶴見大学での総会・技術研修会が予定されていましたが、東北から関東地方の被害が甚大で急遽開催中止になりました。しかし当時の丸橋会長の尽力で、7 月に日本大学にて総会を開催し会則を厳守したのです。

歯科診療を取り巻く社会環境を考えますと、決して順風満帆とは言えません。医学部と歯学部の統合による人員削減や異動、歯科医師数や入学定員の削減、少子高齢化に伴う診療報酬の削減、医療安全のための指導や査察対応、医療被曝低減、DRL 策定対応等々、枚挙にいとまがありません。このような状況下ではございますが、連絡協議会はこれまでと変わらず粛々と歯科医療の向上、患者様へのよりよい診療技術提供を行って参ります。今後とも皆様のご支援を賜り、全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会の発展に貢献したい、そう考えております。今度ともよろしくお願ひ申し上げます。

2018 年 9 月吉日